

# 「肺動静脈瘻に対する経皮的塞栓術前後での瘤径の変化：造影 CT を用いた検討」へのご協力をお願い

—平成 11 年 8 月～平成 23 年 7 月までに当科において肺動静脈瘻に対する  
径カテーテル的コイル塞栓術を受けられた方へ—

研究機関名 岡山大学  
責任研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
病態制御科学専攻腫瘍制御学講座放射線医学分野 教授 金澤右  
分担研究者 岡山大学病院 放射線科 講師 平木隆夫  
岡山大学病院 放射線科 講師 郷原英夫  
岡山大学病院 放射線科 助教 藤原寛康  
岡山大学病院 放射線部 助教 生口俊浩  
岡山大学病院 放射線科 医員 松井裕輔  
岡山大学病院 放射線科 医員 槇本怜子

## 1. 研究の意義と目的

肺動静脈瘻に対する経皮的塞栓術は本疾患の第一選択となる治療法ですが、塞栓術後の病変部の瘤状に拡張した異常血管 (Aneurysmal sac) の治療後の縮小率と Aneurysmal sac の再灌流の関連については深くは知られていません。

従来、肺動静脈瘻に対する治療後の病変の再灌流については胸部単純 X 線写真あるいは胸部単純 CT が用いられてきました。これらの検査で Aneurysmal sac の著明な縮小がない場合に血管造影検査を行い、再灌流の有無について確定診断を行う方法がとられてきました。術後の再灌流が Aneurysmal sac の縮小率で推定することができれば、高度な腎機能低下やアレルギーのためにヨード造影剤を用いた血管造影もしくは造影 CT 検査などが行えない患者様では、単純 CT のみで Aneurysmal sac の縮小率をもとに再灌流の有無の診断を行える可能性があります。

この研究の目的は、治療後の Aneurysmal sac の縮小の程度と再灌流との関連を調査することです。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象：

平成 11 年 8 月から平成 23 年 7 月までの期間に肺動静脈瘻を治療された患者様のうち、塞栓術前および術後 1, 3, 12 か月後に薄層造影ダイナミック CT を撮像された方です。

### 2) 調査期間：

平成 25 年 6 月 25 日～平成 26 年 12 月 31 日

### 3) 研究方法：

肺動静脈瘻に対して径カテーテル的コイル塞栓術を施行された症例のうち、術前および術後 1, 3, 12 か月後に胸部 dynamic CT を撮像された病変に関して、Aneurysmal sac の縮小率と Aneurysmal sac の再灌流との関連について抽出したデータを用いて検討します。

### 4) 情報の保護：

研究の対象となる個人の人権擁護のため、研究の施行に際しては臨床研究に関する倫理指針を厳密に遵守します。本研究はデータを後ろ向きに収集して解析する研究であり、患者様に不利益並びに危険性が生じ

ることはありません。収集したデータは匿名化し、個人の特特定が出来ないようにし、個人情報の漏出が生じないように配慮致します。本研究への参加を希望されない方は2013年12月31日までに下記までご連絡下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 放射線科

氏名：榎本怜子

電話：086-235-7313 ファックス：086-235-7316